

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170300448
法人名	NPO法人 ひかり
事業所名	グループホーム なの花
所在地	佐賀県鳥栖市桜町1424-7 (電話) 0942-87-8528

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	平成21年2月12日

## 【情報提供票より】(平成20年10月19日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤	4人, 常勤換算	3人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80.57 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石橋整形外科、小柳内科クリニック、星野医院、門司歯科、嶋田病院、今村病院
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR駅傍の広い敷地の一角に立地し、周囲は住宅地である。地域との連携・協調の中でのホーム作りを目指し、職員と共に介護サービスの質の向上に向け取り組んでいる。現在の入居者は車椅子の利用者が多いが、その素振りや穏やかな表情から、職員の日頃の支援振りが窺える。
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族等の意見表出の機会作りの充実と入居者・家族と職員のなじみを深めるための施策が改善課題となっていたが、改善への取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価の意義・目的は会議時の説明、指導等で全職員が理解しており、全項目について職員それぞれが評価し、ミーティングで話し合い、取り組んでいくべき事項等を見いだしている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	法人ではホームも巻き込んだ各種の行事も行うため、区長や婦人会、老人会、行政職員等幅広い立場の人が集まり、会合はなされているものの、これまでに運営推進会議は開催されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱が置かれ、行政相談窓口も明記された苦情相談窓口が掲示されている。家族訪問時には気軽に何でも言って貰えるよう話し、雰囲気作りにも配慮している。出された意見等については、直ちに対応するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、世話役も引き受けている。隣接の法人内施設入居者と共に、地域の人々と一緒にチャリティーバザー、春・秋祭り、駅前花壇や畑作り。園児たちとの芋ほりや花作りなどの交流を行っている。又、近隣の人と気軽に声かけあったり、散歩の途中寄ったり、ホームの草取りを手伝ってもらうなどの交流にも努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業所の役割を意識した上で、「優しい心と温かい手」という事業所独自の理念を作りあげている。また、理念をより具体化するために、「いつまでも、自分らしく、ゆったりと」のテーマを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は新人研修時には理念について説明し、ミーティングや会議でも常時理念や理念に基づく月間目標について指導している。職員は全員理念の実践に向けたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、世話役も引き受けている。地元の人々と一緒にチャリティバザー、春・秋祭り、駅前花壇や畑作り、園児たちと芋ほりや花作り等、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義・目的は全職員が理解しており、全員で自己評価を実施して取り組んでいくべき事項等を見だし、サービスの質の向上に努めている。外部評価結果は会議で報告し、評価結果をサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人ではホームも巻き込んだ各種の行事も行うため、区長や婦人会、老人会、行政職員等幅広い立場の人が集まり会合はなされているものの、運営推進会議は開催されていない。	○	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であることを再認識し、早期に運営推進会議が開催されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、行事等には来て貰い、疑問質問があれば出向くなど、情報交換に努め、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ暮らしぶりや健康状態等を知らせる個別の写真入りの便りを郵送している。家族の訪問時には写真集を見てもらったり、日常の様子や健康状態等を話している。又、遠方の家族には適宜電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が置かれ、行政相談窓口も明記された苦情相談窓口が掲示されている。家族の訪問時には気軽に何でも言って貰えるよう話し、雰囲気作りにも配慮している。出された意見等には、直ちに対応するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の正社員化や待遇改善等、離職を極力抑えるよう努力している。異動や離職に当たっては入居者の不安につながるよう十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修をはじめ外部研修には出来るだけ多くの職員が受講するようにしている。法人内の研修やホームでの勉強会等を通じ、知識・技能の習得に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会やネットワーク作りに参加する等情報交換や交流の場を持っている。又、グループホームや介護施設と相互訪問等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談等で生活状態を出来るだけ把握し、来訪やショートステイを利用してもらうなど本人・家族に納得して貰って入居に移行している。入居後は居場所作りや安心できる雰囲気作りをし、又、入居当初の家族訪問については本人に応じた柔軟な対応をお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は家族であり、人生の先輩であるということを含職員が共有しており、日ごろ入居者に教えてもらったり、手助けしてもらうことも多々ある。又、そうした場面が多く持てるよう場面作りや声かけに配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの様子や言動を観察し、声をかけ、思いや意向の把握に努めている。素振りや表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意向の把握が困難な場合は、本人本位に検討している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見・要望を聴きながら、又、協力病院のアドバイスを得て、担当者が計画案を作り、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しやモニタリングは定期的に行われており、心身の変化等があった場合は、随時介護計画の見直しが行われ、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診や入院の回避、医療措置を受けながらの生活の継続等、また、定期的な訪問診療、通院や外出外泊時の送迎等必要に応じ柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得が得られた協力医院の中のかかりつけ医となっている。毎月2回訪問診療が行われる等かかりつけ医とは良好な関係が持たれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応を決め、家族、医師、看護師、職員で繰り返し話し合いを行っている。又、状態の変化がある毎に、家族や本人の思いに注意を払って支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等の声かけはさりげなく行われている。入居者の尊厳を念頭にし、入浴支援や不潔行為があった時など本人に不愉快な思いをさせないケアの実践に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や大まかな1日の流れはあるが、入居者は自己選択でマイペースの日々を送っている。職員はそれに応じた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々人の能力に応じ料理の下ごしらえを職員と一緒にやっている。また、同じ食事を職員も一緒にとっている。食後は毎回感想や意見を貰って次の献立に活かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から入浴できるが夜間の入浴者は居ない。見守りや介助の他、ラジカセを聞いたり入浴剤を使ったりなど思い思い楽しんで貰う支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や野菜作り、漬物、洗濯の一連の作業、壁飾り作りなど入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。又、カラオケやビデオ鑑賞、演芸、絵手紙、遠出の外出など、楽しみごとを入居者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出行事の外、その日の思いつきや希望により、買い物や散歩等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の所在確認と見守りを徹底することで、日中玄関に鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、火災避難訓練を実施している。又、夜間を想定したシミュレーション訓練も実施し、近隣の人々には日ごろから協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し、職員が情報を共有している。食事量や味付け、形態も入居者個々人に応じたものとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、不快な音や光はない。食事の時間帯にはテレビの音は消され静かなBGMを流している。居間や食堂には季節の花が活けられ、季節感のある壁飾りが掛けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備え付け備品はカーテンとベッドのみである。居室には使い慣れた整理ダンスや椅子、テレビ、日用品が持ち込まれ、写真や飾り物等も思い思いに飾られており、入居者の居心地のよさに配慮している。		